

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3470103106
法人名	つるかめ共和国株式会社
事業所名	グループホーム つるかめ共和国大正橋
所在地 (電話番号)	広島県広島市南区西蟹屋一丁目1番29号 (電話) 082-567-6851

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年6月25日	評価確定日	平成21年7月27日

【情報提供票より】(平成21年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	9人	
職員数	8人	常勤 8人,	非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / ○単独	新築 / ○改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り 地上 5 階建 2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40000・55000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 70 円
	又は1日1270 円		

(4) 利用者の概要(6月10日現在)

利用者人数	8人	男性	4人	女性	4人
要介護1	1人	要介護2	2人		
要介護3	0人	要介護4	2人		
要介護5	3人	要支援2	0人		
年齢	平均 86.7 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人高杉整形外科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

つる・かめ共和国 大正橋は、JR広島駅の南東、猿俣川に架かる大正橋のたもとにある五階建てビルの二階にあります。広島駅に近く買い物にも便利な市街地に位置しながら南に川が流れる静かな所で、近くにある新広島市民球場は広域避難場所に指定されています。「若者の一日も、高齢者の一日も同じく大切な一日であるから、意義のある一日を過ごしていただきたい」という施設の運営理念のもと、「生涯現役」を目指して「できることをどんどんしていただきその行動に感謝」を表し、「一日一日の生活の中で何事にも有り難いと感じていただく努力」、「笑いのある生活」を目標として、利用者を人生の先輩として敬い、職員は子や孫のような立場で利用者から学び感謝の気持ちを忘れないという気持ちで、家庭的な支援に取り組まれています。開設して7年目となり、地域の人やボランティアの来所も多く、併設のデイサービス事業所と協働で地域の行事や祭への参加を積極的にされています。今年で5回目を迎える「つる・かめ祭」は、地域の協力があがり、参加者も多く地域の行事として定着してきているなど地域に溶け込んだ交流が行われています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果をもとに、町内会の「災害時緊急連絡網」に参加し、より具体的に地域の支援を得られるよう取り組まれています。また、医療行為が必要になる終末期ケア等については、利用者・家族の希望があればホームで看取る、という方針をもたれており、方針の共有について利用者・家族・協力医療機関・職員間で話し合う姿勢をもたれています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価項目を職員に配布して意見を求めた後に管理者と計画作成担当者を取りまとめておられます。また、評価で明らかになった課題は「初心に帰るきっかけ」と考えて、管理者を中心に話しあい改善に取り組まれています。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は家族、町内会長、民生委員、市の担当者、地域包括支援センター職員の出席のもと、2か月ごとに開催されています。ホームの活動内容の報告を行い、地域に密着したホームとして、地域の情報や意見を聞くことで、サービスの向上に活かしておられます。また、運営推進会議をおして町内の非常災害時緊急連絡網に参加し、災害時の協力を依頼するなど、協力体制を築かれています。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時をはじめ、介護計画の見直し、家族会等の行事など、機会があるごとに、家族の意見を聞く窓口を設けられており、意見や提案を運営に反映する姿勢をもっておられます。また、利用者の日常生活の状況が伝わるように笑顔のある写真を盛り込まれてこまめに報告されるなど、家族の安心感につながる取り組みをしておられます。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、町内の祭やどんど祭、運動会、新年会、忘年会などの行事に積極的に参加されています。また、利用者と職員で地元の人の行きつけの喫茶店にコーヒーを飲みに出かけるなど、交流を楽しんでおられます。地域の人やホームに遊びに来たり、歌や踊り、楽器演奏などのボランティアとしても役割をもたれています。電気器具が故障したときは地域の人が気軽に修理を引き受けるなど、地域に溶け込んだホームとなっています。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創設者の介護経験から、「若者の一日も、高齢者の一日も同じく大切な一日であるから、意義のある一日を過ごしていただきたい」という事業所独自の理念を掲げられています。「良く笑っていただく環境作り」「できることをどんどんしていただきその行動に感謝を表す」「一日一日の生活の中で何事にも有り難いなど感じていただく努力をする」「生涯現役をめざしていただく」という方針を持ち、日々の支援に取り組まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所内に掲示されるとともに、管理者と職員は日々の生活の中や、毎月1回の全体会議で理念、方針に添った支援について話し合いながら、その共有に努められています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入され、どんど祭や運動会、新年会、忘年会などの地域行事に参加されています。また、利用者は職員と一緒に地元の行きつけの喫茶店に出かけるなど、交流を楽しんでおられます。地域の人もホームに遊びに来たり、ボランティアとして歌や踊り、楽器演奏に来所されます。電気器具が故障した時は地域の人が気軽に修理を引き受けるなど、日常的な交流があります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けることを、「初心に帰るきっかけ」としてとらえ、全職員が話し合い、活用されています。また、自己評価については、評価項目を職員に配布して意見を求め、管理者と計画作成担当者がまとめられています。評価の結果は、運営推進会議で出席者に公表し意見を求めるとともに、家族にも会議録の複写を配布されています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市担当者の出席のもと、2か月ごとに開催されています。ホームの活動報告とともに、参加者の意見や地域の情報を聞くことで、サービスの質向上に活用しておられます。また、運営推進会議とおして町内の非常時緊急連絡網に参加され、災害時の救出を依頼されるなど、協力関係を築かれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の際、担当者から意見をもらわれています。欠席者には会議録を送ったり、関係書類を届け出る際に近況報告等の話をする機会を持つようにされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時や、毎月の報告時に利用者の写真を添えられています。また、3か月に1度の介護計画の見直しや、年に1度開催される家族会など、機会があるごとに利用者の状況や活動の報告をされています。また、年に4回発行される「つるかめ便り」は、利用者の日頃の笑顔のある写真が盛り込まれおり、家族の安心につながっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに訪問された時や運営推進会議に出席された時、家族会等の行事など、家族の意見を聞く窓口を設けられており、サービスの改善に向けて積極的に取り入れる姿勢もたれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある場合は、1か月の引継ぎ期間を設けて、利用者にも職員にも慣れてもらうように配慮をされています。このため、馴染みの関係に配慮した取り組みが行われています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	広島県介護福祉士会主催の介護講習への参加や、毎月1回、経験豊富な職員による介護指導研修など自主的な研修に取り組まれ、職員のスキルアップにつなげておられます。また、資格取得のために職員間で勉強会も行われるなど支援体制ができています。		資格取得支援や職員間で自主的な研修に取り組まれるなど、職員のスキルアップに向けて努力されています。これからも職員の経験に応じて計画的に外部の研修会等に参加される機会をもち、更なるサービスの質の向上につなげられることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会に加入し、交流の機会をもらっています。他施設との職員交流の計画を立てられるなど、積極的に交流の機会を持つようされています。		他施設との職員交流の計画は実現が叶わなかったとのことですが、これからも外部研修や他の機会を利用することで、同業者と知り合う機会を持ち、ネットワークを充実できるよう取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を考えている人に見学に来てもらい、コミュニケーションを取りながら、入居について説明し、利用者、家族が納得された後入居されています。利用者が話しやすい雰囲気作り、溶け込みやすい環境作りに配慮されています。見学に来られた時に気に入られ、ホームへの入所を心待ちにしていた利用者もおられました。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームは家庭という意識をもたれており、人生の大先輩である利用者は「祖父母」、職員は「子や孫」のような家庭的な雰囲気の中で介護に取り組まれています。日々感謝の気持ちを持ちながらお互いに支えあう関係にある支援に取り組まれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や生活歴から利用者一人ひとりの希望や意向、得意なこと、好きなことの把握に努められ、絵の得意な人には絵を描いてもらうなど、日常生活の中で得意なことや趣味を継続できるよう取り組まれています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の日頃の様子から意向や希望をくみ取り、利用者、家族にもケア会議に参加してもらい、意見を聞きながら介護計画を作成されています。会議に出席できない家族には、事前に意向や希望を聞きとるなどの配慮をされています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに、定期的に介護計画の見直しをされています。ただし、利用者の状態に変化が生じた場合は、状態に応じたサービス提供ができるように家族、運営者も含めたケア会議を開催し、介護計画を見直されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎年12月に開催される「つる・かめ祭」で「無料介護相談コーナー」を設け、職員が介護相談に応じておられます。併設のデイサービス事業所とは、「つる・かめ祭」の共催をはじめ利用者の活動に応じた交流が頻繁に行われています。また、利用者の希望に応じて地域の喫茶店や商店に出かけたり、家族が訪問されたときも、ゆっくり過ごしてもらえるように配慮されるなど、事業所の多機能性を活かした支援に取り組まれています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診が月曜日から金曜日まで行われています。家族の同意があれば24時間体制の往診も可能であるなど、緊急時にも受診できるように医療機関との協力体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が必要になった場合は、利用者、家族の同意を得て、医療による対応をされていますが、希望があればホームで看取る方針を持っておられます。また、利用者、家族の思いを傾聴し、方針の共有について利用者、家族、協力医療機関、職員間で話し合う姿勢を持っておられます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者を人生の先輩として敬いながら、家族のような気持ちでの言葉かけや対応に配慮されています。個人情報の記載された資料は鍵のかかるロッカーに収めてあり、取り扱いにも十分留意されるなど、家族からも信頼を得ておられます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課に合わせるのではなく、利用者の身体状況や意向にあわせて、家庭で過ごす時と同じように、一人ひとりのペースにあわせた生活ができるよう支援されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気の中で、利用者に野菜の下ごしらえや、食事の配膳、片付けなど、得意なことや状態に応じた役割を持っていただきながら、一緒に食事の支度をしてもらえます。訪問当日は、利用者と一緒に菜園で育てた野菜が食卓にのぼりました。食事はできるだけ自分で食べられるよう見守りをされており、会話を楽しみながら食事をする光景が見られました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が、「お風呂に入りたい」と思われたタイミングで入浴してもらおうように支援されています。また、入浴予定日ではない日でも、希望があれば入浴してもらおうなど、利用者の状態に応じて入浴ができる体制となっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や知識を活かし、一人ひとりの得意な力を発揮できる場を提供することで、「できることは楽しみながらどんどん行動していただく」方針で支援されています。物干しテラスに菜園があり、職員と一緒に花を植えたり、野菜を育てたりされています。日々の生活の中では、食事の下ごしらえや配膳、お菓子づくり、洗濯物たたみ等の役割を持ち、散歩や買い物、喫茶店に出かけるなどの外出も楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が外出したいときはできるだけ外出できるよう配慮されています。併設のデイサービスとの交流をはじめ、冷蔵庫の中の食材が不足しているときは一緒に買い物に出かける、地域の交流の場である喫茶店にコーヒーを飲みに行く、ファストフードの店に行く、近所に散歩に出かける等、利用者の希望に沿った支援がされています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームがビルの2階にあることや、交通量が多く、道路を隔てたところに川があることから、見守り体制が手薄な時は、利用者の安全を第一に考えて玄関の鍵をかけられています。居室の鍵はかけないようにされ、利用者はリビングや居室で、思い思いの場所で過ごされています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会の「災害時緊急連絡網」に参加することで、災害時に協力を得る仕組みを整えられています。年に2回消防署の立会いのもとで、避難訓練を実施されるとともに、いざというときスムーズな避難ができるように、マニュアルに沿って、毎月1回自主避難訓練を実施されるなど災害時に迅速に対応できる体制を作られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は「家庭の食事と同じように」という方針で作られています。1日30品目を目安とし、昼食では、15品目程度の食材を使うよう配慮されています。栄養面については合計1500kcalとなるように前食とのバランスを考えた献立に配慮し、摂取量もきちんと記録されています。利用者の栄養状態の確認は、毎月行われる主治医の血液検査によって行われています。また、水分は一日1500cc以上とってもらえるよう工夫されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると台所とリビングがあり、テーブルには季節の花が生けられています。壁には利用者の描かれた絵が飾ってあるなど、和める空間となっています。台所で料理をする音が聞こえ、ご飯の炊ける匂いや配膳の様子も見えるなど生活感が感じられます。利用者は自然にリビングに集まり、自分の椅子に座って思い思いに過ごされています。絵を描いたり、職員と会話をしたりと、家庭的な雰囲気があります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が希望する位置にベッドや家具を置かれています。好きな絵や写真が飾られた明るい部屋、お気に入りの縫いぐるみがある部屋など、家族の協力を得ながら利用者の好みに合わせて居心地よく過ごせるように配慮されています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 つる・かめ共和国 大正橋

評価年月日 平成21年6月9日

記入年月日 平成21年6月11日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 施設長 氏名 北枝 敬一

記入者 職 管理者 氏名 栗栖正浩

目 次

I 理念に基づく運営	1	IV その人らしい暮らしを続けるための 日々の支援	9
1 理念の共有	1	1 その人らしい暮らしの支援	9
2 地域との支えあい	1	(1) 一人ひとりの尊重	9
3 理念を実践するための制度の理解と 活用	2	(2) その人らしい暮らしを続けるため の基本的な生活の支援	10
4 理念を実践するための体制	2	(3) その人らしい暮らしを続けるため の社会的な生活の支援	11
5 人材の育成と支援	4	(4) 安心と安全を支える支援	12
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	4	(5) その人らしい暮らしを続けるため の健康面の支援	13
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとそ の対応	4	2 その人らしい暮らしを支える生活 環境づくり	14
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続へ の支援	5	(1) 居心地のよい環境づくり	14
III その人らしい暮らしを続けるための ケアマネジメント	6	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環 境づくり	15
1 一人ひとりの把握	6	V サービスの成果に関する項目	16
2 本人がより良く暮らし続けるための介 護計画の作成と見直し	7		
3 多機能性を活かした柔軟な支援	7		
4 本人がより暮らし続けるための地域 資源との協働	7		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	当施設の理念の基本は、ご利用者に生涯現役を目指していただくこと。地域の人々と接触することにより、ご利用者にさまざまな役割が発生してきますので、地域密着を積極的に押し進めている。	○	年に一回の当施設の“つる・かめ祭り”のバザーなどの運営を、ご利用者と地域の方々と介護職員で話し合い相談しながら進めている。また地域の方々とは日本舞踊・三味線演奏会などを楽しく開催している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の話し合いや、月一回の全体会議などで、ご利用者が今もっておられる精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台を提供するなど、理念の共有に努めていますが、十分とはいえない。	○	食事の下ごしらえ、洗濯物のたたみ、家庭菜園の管理、施設内の清掃、食材など買い物同行、他施設の訪問など、試行錯誤を繰り返し、柔軟な対応にて取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	当施設の理念は、家族会や運営推進会議や年四回作成している、つる・かめ祭りなどで、その都度ご家族や地域の人々に理解していただけるよう説明している。	○	さらに近所の保育園児との交流など、出来ることから取り組んでいる。

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ご利用者との散歩の時など近所の方によく声掛けや、また声を掛けられることもあります。また町内会のたまり場のような喫茶店にもご利用者と同行し、コミュニケーションを図っている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りや、運動会・新年宴会などに積極的に参加しており、またご近所の方もときどき当施設に遊びに来ていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の独居高齢者の安否確認を職員交代で、時々電話や訪問声掛けを行っている。 特に、土日や盆休みや正月休みなどの安否確認を実施している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	他の施設の優れているところなどを教えていただき、また運営者・介護職員が初心に帰るきっかけづくりにもなると考えている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご家族・町内会長・民生委員・地域包括支援センターの方々よりさまざまな提案を頂き、当施設のミーティングで話し合い、出来ることを実行している。たとえば近所の幼稚園児の訪問や災害時にご利用者の救出依頼など		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者さんも大変忙しそうなので、各種届出や運営推進会議開催報告以外にはこれといった行き来の機会がない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在まで成年後見制度が必要になられた利用者はいませんが、社会福祉協議会の「かけはし」などがあることは理解している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員間で「虐待はしない」と徹底できている。ミーティングなどで虐待につながる問題点や困っていること、悩み等をオープンに話し、解決・防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族との面談時に契約書関係も説明し、質問や要望などを聞き出せるよう努めている。また介護計画書作成時に、ご家族の思いを聞かせていただくための記入欄を設けている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	当施設は365日24時間いつでも良いので、頻繁にご家族に来ていただけるよう、常に促している。またほぼ全員のご利用者に運営推進会議に出ていただき、意見を述べていただいている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	当施設は交通の便の良い場所にあり、ご家族が頻繁に来られているので、その都度報告させていただいている。また介護計画作成時にも詳しくお話している。	○	最近運営推進会議の議事録の写しをご家族にお渡ししている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族から運営に関する苦情は、今現在のところありませんが、気軽にご家族が職員に意見が出していただける雰囲気作りに努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回の全体ミーティング以外に、日々のコミュニケーションで聞く機会を持つようにしている。	○	職員からの施設運営に関する意見は、当施設の理念にかなった、前向きなものに関しては、積極的に取り入れて行きたいと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	現在の人員配置で、日々の業務をこなすのが精一杯の状況である。	○	花見や家族会の行事で人手が要るときは、ボランティアで非番の職員にも出てもらい、まかなっている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	これは当施設にとって大きな問題であり、良い方法があれば現場で指導していただき、ぜひ教えていただきたい事柄である。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	これは非常に重要なことで、ミーティングや日々の業務の中などで行っていますが、育つ人と育たない人がいることも事実で、育つ人を募集することが重要であると感じている。	○	内部研修として、毎月一回ケアマネによる介護指導を行っている。外部研修としては介護福祉士会主催の介護講習に参加している。職員の介護福祉士取得に勤めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	以前に他施設と短期間での職員交換など試みましたが、勤務時間(シフト)や交通の便などが問題になり、実現していない。	○	近隣のグループホームなどと、機会があればぜひ実現したいと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	このことも非常に重要なことであると考えています。まずすぐ出来ることで、話し方・声のトーン等の気配りに勤めている。	○	結論は、それぞれの介護職員が、プラス思考で生活することであると考えていますが、すぐに結果が出る事柄ではなく、長期目標になると考えている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	今行っていることが十分とは思いませんが、これも向上できる人と出来ない人に分かれてしまい、向上できる人を募集する以外になかなか解決法は見つからないと感じている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居契約までに、今日までの生活スタイルや心配事、嗜好や嫌なこと・好きなことなどを、雑談の中から聞き出し、また体験入居もしていただき、満足に近づけるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	体験訪問や面接に来られたとき、ご家族の思いを直接職員に話していただいている。 またご家族の不安や困っていることなどを聞き出し、少しでも満足していただけるよう努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当施設に連絡してこられるときは、家族での介護が限界と感じておられる場合が大部分であり、入所を前提として、安心・満足を提供できるよう、努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	当施設では、まず2～3日の体験入居を勧めており、ご利用者に徐々に慣れていただけるよう、努めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当施設の理念でもありますが、ご利用者は人生の大先輩であり、若輩である我々介護者は、子や孫のような位置関係を貫くことである、ということを目指している。	○	生涯現役とは、お父様・お母様・おじい様おばあ様を演じきっていただくこと。 ご利用者に適切なことはお願いし、おおいに頼ること、を目指している。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	当施設はご家族に頻繁に来ていただいておりますが、その際自発的にご家族が食器洗いをされたり、食事の準備を手伝ったりされている。 ご利用者はこの風景を大変喜ばれている。	○	当施設で、ご家族に申し上げることは、我々は介護・介助は提供させていただきますが、親孝行はご家族しか出来ませんよ、とお話している。
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	当施設に入居されていることが、家族に精神的また時間的余裕も生まれ、そのことでご本人とご家族との関係が良くなっていると、確信している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の知人や県外のご親戚などの訪問も、ご利用者が拒否されない限り、自由に訪問していただいている。またご利用者が昔から通っておられた理髪店への外出支援なども行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	たった 9 人のご利用者でも、共同生活ですからたまには口論もあります。その時後に心の傷が残らない程度に介護職員が介在する程度です。そのようなことにより、少しずつ連帯感が生まれてきているように感じている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在まで当施設を退所された方は、老人保健施設や病院に移転されたため、その後の関係継続はありませんが、必要とされる場合は当然おつき合いを大切にしていこうと考えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	たった 9 名のご利用者でも、好き・嫌い・興味のあることはばらばらであり、それぞれのご利用者の思いを大切にして、介護者が援助しながら、生活していただいていると感じている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者やご家族から生活暦などを、機会あるごとに詳しく聞きだし、活用している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	当施設は、ご利用者が今もっておられる精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台を提供することであると考え、可能なことから実行している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	管理者・ケアマネ・介護職員間によく話し合い、ご利用者の情報を集めて、お一人お一人に適した介護計画が作成できていると考えている。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご家族・運営者・管理者・ケアマネ・介護職員間によく話し合い、必要があれば見直しも行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の介護日報に記録し、情報の共有化を促し、介護の実践や介護計画に活かしている。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
----	--	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員には地域の行事へのご利用者の参加承諾やボランティアさんの紹介依頼など、消防には防火・避難訓練や救急救命講習などを依頼している。 幼稚園などには園児の訪問依頼などを行っている。 またさまざまなボランティアさんに来ていただいている。		
----	---	--	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要とされるご利用者に、訪問理容・訪問歯科を利用していただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に一回の運営推進会議に参加していただき、アドバイスをいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	当施設のかかりつけ医は、24時間体制で往診していただいている。 その節は、必ず事前にご家族の承諾を得ている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	すべてかかりつけ医の指示で、ご家族の承諾後に、総合病院などに診察・治療のために介護職員が同行している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	基本的にはかかりつけ医に相談している。 しかし、同じ建物内にデイサービスがあるため、その看護師の意見を聞くこともある。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ご利用者の入院時は、何度か様子を伺いに見舞いに行き、退院が決まれば、どのようなケアが必要なのかを、病院職員やご家族と打ち合わせをしている。	○	今後ご利用者の入院などが起きた場合は、ご利用者のストレス軽減のためにも、見舞いや情報交換を必要に応じて行なっている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	現在そのような状態のご利用者はいませんが、病状の悪化、著しい機能低下が見られたときは、かかりつけ医とご利用者またご家族及び運営者・管理者・ケアマネ・介護職員で今後の方針を話しあいたいと思っている。	○	過去にご家族より「最後はつる・かめで・・・」延命治療はしたくないとの要望があり、かかりつけ医の協力の元で、ターミナルケアに近い経験をしたことは数件ある。今後もご本人・御家族の意向を傾聴し、医療機関と連携して対応していく方針である。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	掛かりつけ医とご家族と相談のうえ、ご利用者・ご家族の要望に、当施設の出来ることの範囲内で、協力させていただいている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	もしご利用者が、病院や他の施設に移転される場合は、適切な情報提供を行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ご利用者は人生の大先輩ということを基本に、接していますし、個人情報厳重に管理している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	当施設の理念の基本は、介護職員はご利用者が今持つておられる、精神的・肉体的能力を發揮していただく舞台を提供することであり、現時点で十分ではないが、できるだけ実行するよう努めている。	○	ご利用者によっては、ご自分の思いや希望を表現することが不得意な方も居られますが、ご家族の話や生活歴などを参考にしながら、対応している。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	介護職員の数に限りがありますので、十分ではありませんが、朝になれば起きていただく・夜になれば寝ていただくという全体的生活リズムはある程度とっているが、その他はご利用者の要望にできるだけ沿うように努めている。	○	ご利用者の要望に沿えるよう管理者・ケアマネ・介護職員が連携し、臨機応変に対応している。また理容や買い物などの外出も、出来るだけ実行するよう努めている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご利用者が希望される、なじみの理髪店に散歩をかねて出かけている。ADL低下によりお出かけが困難な方は、出張美容を手配している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者の好みや食べやすさなどを工夫した食事になるよう心がけている。また食材の下ごしらえや調理・配膳及び食後の片付けやおやつ作り、などもご利用者に参加していただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご利用者が望む嗜好品は周囲に悪影響が無い程度に、楽しんでいただいている。ただし、タバコについては喫煙場所を特定し、喫煙時以外は介護職員がタバコ・ライターを確実に保管している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中は下着、夜間はリハビリパンツもしくは尿取りパットを使用するなど工夫し、日中のトイレ誘導、パット交換はご利用者に合わせた介助を行っている。また衛生を保つために日夜を問わず、陰部あるいは全身清拭などを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご利用者の都合、(たとえば・・水戸黄門など見たいテレビがある)などに合わせて、入浴のお誘いをしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	朝になれば起きていただく・夜になれば寝ていただくという全体的生活リズムは基本的にはありますが、起床時間も就寝時間も個人差が有り、ご利用者に合わせた介助を行っている。昼食後必要とされるご利用者には、短時間の昼寝もしていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	当施設の理念の基本である, ご利用者が今もっておられる精神的・肉体的能力を発揮していただく舞台の提供を心がけている。ご利用者が意欲や興味を示されること, たとえば食事の下ごしらえやおやつ作りまた食材などの買い物・散歩・園芸や同じ建物内にあるデイサービスへの交流訪問などなど, 行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望をご家族に根気強く伝え, ご理解いただいた場合は, 実施している。 ただ認知症のため, 保管場所が分からなくなり, 被害妄想もしばしば起こってしまいますが, プラス面のほうが多いと感じていますので, 今後も実施するつもりである。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	地域のお祭り・運動会などへの参加や, ご利用者自身のほしいものや食材などの買い物, 散歩, デイサービスへの交流訪問などなど行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	以前に, 「お墓参りに行きたい」との要望があり, ご家族に相談するも県外在住のため, 忙しくて来れないとの返答であった。そこで他施設の車を利用し, 勤務外の職員の同行でお墓参りが実現できた。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	絵手紙をご利用者に作っていただき, ご利用者の散歩の途中に投函していただき, ご家族へ郵送した。またご家族よりご利用者に返事が届くような支援をした。 電話も希望があれば, 自由に掛けていただけるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	当施設は交通の便が非常に良く, ご家族などが頻繁に来ておられる。そこで来客時には居室でゆったりとお茶を飲みながら, 過ごしていただけるよう心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止のマニュアルを作り、介護職員間で徹底し理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	当施設は交通の便が非常に良い場所にあり、交通量が大変多くご利用者単独の外出は非常に危険なため、見守り職員が手薄なときは、玄関のみ施錠している。ご利用者が玄関扉に向かい、外に気持ちが向いたときは、可能な限り、介護職員が同行し散歩などに出かけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中の声かけ、確認、夜間の見守りなどで把握している。また歩行移動時などの事故を防止するため、そのつど声掛け見守りに努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	例えば、火災の原因になりうる、お仏壇のマッチやライターは厳重に介護職員が回収し、必要なときは介護職員の見守りにて使用している。 その他は柔軟に対応していると感じている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ご利用者それぞれに対し、どのように注意すべきか、ミーティングなどでよく話し合い、ほぼ危険予測が出来ている。またもし事故につながりそうな行為に気づけば、介護職員間で情報を共有し、ケアマネが介護計画を作成している。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	消防署や看護師などから応急手当や初期対応の講習を、全員が受けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年二回避難訓練をしていますし、町内の行事に頻繁に顔を出し、災害時には助けていただけるよう常日頃からお願いしている。	○	町内会のご協力のもと、災害時緊急連絡網の中にも含めて頂いた。もしもの災害時には町内の支援体制が一応整っており、心強く感じている。また職員の意識向上のため、自主避難訓練は、毎月一回行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	当施設の運営理念である、ご利用者の精神的・肉体的能力を発揮していただくためには、多少のリスクが伴うこともご家族に理解していただくよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ご利用者の体調の変化や異変に気づいたときは、かかりつけ医とご家族に直ちに連絡し、速やかに対処している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬に関しては、かかりつけ医の指示に従い、また服薬後の症状の変化もかかりつけ医に報告し、その後の指示も受けていますし、それらのことを詳しくご家族に報告している。また薬のファイルを作り、介護職員間で情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給や適度な運動をしていただくことを心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨きや入れ歯の清掃とかみ合わせのチェックなど、口腔ケアに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいき たい内容 (すでに取り組 んでいること も含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できる よう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分補給については、個人の体調や気候、 気温に合わせて、摂取量に気配りしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作り、消毒チェックシート を活用している。特にノロウイルス対策は嚴重 に実施中である。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の 衛星管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	キッチンの床その他冷蔵庫、冷凍庫、まな板・ などなどの清掃・消毒に気配りしている。	○	引き続き必要に応じて消毒を行い、衛生管 理に努めてゆきたいと考えている。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出 入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	看板を設置している。 ご利用者が大切に育てているランの鉢植えなどを飾って いる。またご利用者が安全に歩行できるよう、昇降機や 手すりを設置し、前面道路との段差解消なども行って いる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や 季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの壁にはご利用者が書かれた季節の花のイラスト などを飾ったり、お花があるときは、玄関などに活け ている。また季節ごとにリビングの飾りつけを変えたり、 誕生日会などのパーティの際は、華やかに飾りつけて いる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他に、事務所ソファも共有スペースにしていますので、ご利用者が自由に利用しておられる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の生活暦を理解し、入居時より馴染みの物、たとえば朝夕のおつとめをされる方はお仏壇、嫁入り道具だった鏡台、などの持込みをお願いしている。また気に入っている写真やご家族の写真なども飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節や定期的に換気も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりやスロープを取り付け、個々の身体機能を考慮し、必要に応じて福祉用具等を利用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗などで、ご利用者が自信をなくしそうな場面を招く可能性がある場合は、出来るだけ否定しないで防ぐ努力をしている。	○	わかることや自信のあることを大切にする努力はまだまだ足りないと感じている。これからも意識して続けていきたいと考えている。
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前にプランターの家庭菜園を設けていますので、ご利用者に、「何を植えましょう？」と相談して、野菜や花の苗を植えている。また当施設は2階に位置しますので、外出時の階段昇降がリハビリにもなっている。	○	家庭菜園の手入れも、「出来ること」として園芸が好きな利用者に少しお任せしていますが、より発展できればと考えている。

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input checked="" type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> ① 大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、活き活きと働いている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目